

# すみだモダン

2010-2022

ブランド認証 商品&メニュー

Certified Products and Restaurant Menus



こころ、ゆさぶる。

すみだ  
モダン



こころ、ゆさぶる。  
すみだ  
モダン

こころ、ゆさぶる。  
すみだモダン

いまだけではない、100年先のこころよさを。  
自分だけではない、より多くの人へのよろこびを。  
まあたらしい、鮮やかな感動を求めて。  
こころ、ゆさぶる。  
つくる想いが、心を動かしていく。

2021年秋より「すみだモダン」は新たな理念のもと、  
ロゴとステートメントを刷新し再スタートしました。

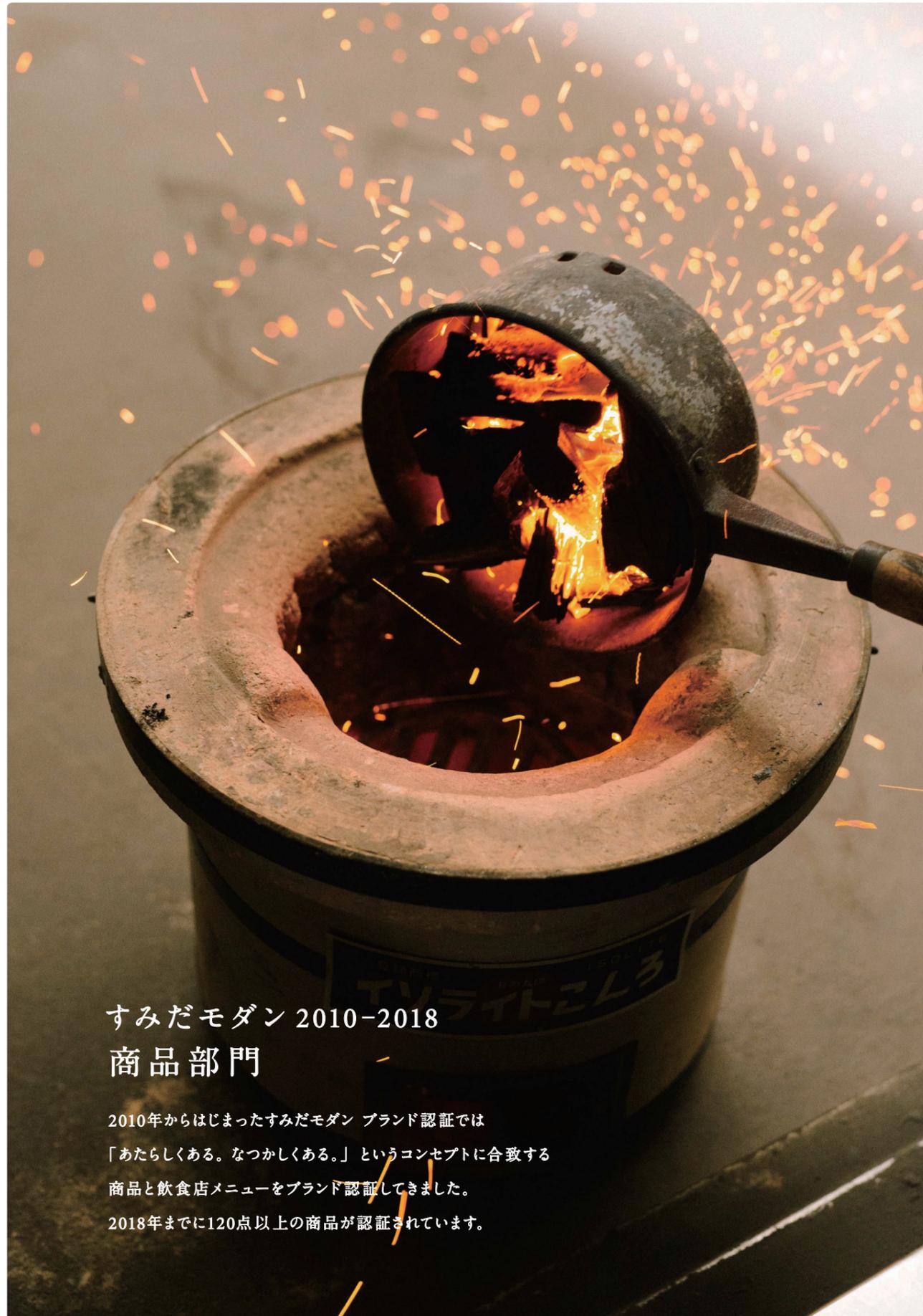


すみだモダンは、東京墨田区の産業プロモーションです。  
2009年、東京スカイツリーの誘致決定をきっかけに、  
ものづくりのまちとしての産業ブランド力を  
国内外にPRする目的ではじまりました。

2018年までの10年間は主な活動として、  
区内の付加価値の高い商品や飲食店メニューを  
ブランド認証しPRを行ってきました。

そして2021年、ものづくりを通して社会課題の解決等に  
取り組む事業者の活動そのものを支援することを目的に  
「すみだモダン ブランド認証」は再スタートしました。

本カタログでは2010年～2018年までにブランド認証された  
商品と飲食店メニュー、また2021年から新たな審査基準の  
もとに認証された商品をご紹介します。



## すみだモダン 2010-2018 商品部門

2010年からはじまったすみだモダン ブランド認証では  
「あたらしくある。なつかしくある。」というコンセプトに合致する  
商品と飲食店メニューをブランド認証してきました。  
2018年までに120点以上の商品が認証されています。



### 1 <sup>かざり</sup> 鍔かんざし

草花をかたどり魔除けとして身につけたのが、かんざしの由来。花が本当に咲いているように、蝶が飛び立ちそうに見える。4代目かんざし職人が、江戸から続く技で自然の美を表現。

[かざり工芸三浦]



### 2 <sup>たがね</sup> 名刺入れ 鑿の息吹

鑿を使用して模様を打ち込む日本古来の伝統の技で神社・神輿などの鍔金具を製作する塩澤製作所。「波に千鳥」「北斎とんぼ」。どちらも金属に彫り込まれたとは思えないほど美しく繊細な模様。百年、使い難いでいける名刺入れ。

[有限会社塩澤製作所]



### 3 マグネット 日本お持ち帰り

すみだで生涯の大半を過ごした葛飾北斎の絵と、日本最古の漫画といわれる鳥獣戯画を伝統の鑿技術で彫刻したマグネット。職人がひとつひとつ手で仕上げた小さな芸術作品は、海外への土産として喜ばれている。

[有限会社塩澤製作所]



### 4 江戸小紋 着尺 [鯉小紋]・訪問着 [鯉柄]

贅沢を禁止された時代に、一見控えめで実は細やかで複雑な模様の江戸小紋で、人々はお洒落を楽しんだという。大松染工場は1万以上の型紙をデータ化し、江戸小紋を伝承する取り組みも行っている。

[有限会社大松染工場]



### 5 <sup>おあつら</sup> 御誂え足袋

めうがやは慶応3年(1867年)創業の足袋専門店。ひとりひとりの足の形や動きまで考えて微調整しながら一足一足丁寧に誂えるオーダーメイドの足袋は、足に吸いつくようにフィットする。

[向島めうがや]



### 6 江戸木箸 五角・七角・八角 削り箸

厳選された銘木を使い、一本ずつ手で削ってつくる箸。五角・七角・八角から自分の手に合うタイプを選ぶ。箸は食と人をつなぐ大切な道具。細かい料理もつまみやすく、食べることが楽しくなる箸である。

[有限会社大黒屋]



### 7 おとも箱

おとも箱は携帯用薬入れだった印籠を現代風に再現した小物入れ。釘などを一切使わず、1本の角材をくり抜き木の感触と木目を活かしている。アクセサリーなどを入れて持ち歩くと可愛らしく、着物姿の所作を美しく見せる。

[指物益田]



### 8 <sup>きめこみ</sup> 江戸木目込人形 [小梅雛]

小梅雛は、古代布と呼ばれる江戸、明治、大正時代の着物地を使用した一点物の人形。初代創業は170年前。伝統の素材や製法を大切に、昔の着物ならではの繊細な柄や風合いを小さな人形に活かしている。

[塚田工房]



### 9 RAKUZA

桐を愛する職人がつくったフワリと軽い椅子。片手で持ち運べ、角が丸いので座り心地もいい。ジョイント部分に用いられているのは蟻ホゾ組という伝統技術。

[株式会社二葉桐工房]



10 ベっ甲の耳掻き

高度な技法を三代に渡り継承する職人がつくった耳掻き。ベっ甲はタンパク質なので肌あたりが柔らかい。手作業でさじ部分の丸みをつくり、使いやすい柄を長く仕上っている。船色の甲羅模様に江戸の美が見える。



[株式会社磯貝ベっ甲専門店]



11 合曳

釘を使わず木をびたりと組み込む指物技法による正座用の小さな腰掛椅子。脚を取り外し畳めば手軽に持ち運べる。指物に惹かれた職人の精緻な技。桜材を使い、モダンなテイストで仕上っている。



[指物益田]



12 自分で作るからくり屏風キット 北斎編

からくり屏風は、開くたびに違う絵があらわれる不思議な屏風。このキットは組み立てながらその謎を解明できる。北斎の4つの作品を楽しむことができるが、好きな絵や写真を貼って飾ってもいい。



[株式会社片岡屏風店]



13 「漆モダン™」和紙コースター

「うるわし」という言葉に由来する漆は「japan」と呼ばれ世界でも賞賛されている。すみだをイメージし鉄塔のフォルムと川の流れを表現した和紙コースター。漆でコーティングしているので水に強く何度でも使える。



[安宅漆工店]



14 静電気除去ブラシ

電子機器の故障の原因になりやすい静電気をサッと手軽に除去できるブラシ。ひと束ずつ手で植えた静電気除去繊維と銅板で放電する構造。祖父の代から続く伝統の手植え技法で、時代のニーズに応えている。



[株式会社宇野刷毛ブラシ製作所]



15 “SHOUBI” coat [匠美コート]

冬に着る着る半纏を進化させたこのコート、中綿は先進の軽量防寒素材を使い、襟とボタンは洋風に仕上っている。歌舞伎衣裳も手がける染工場が、伝統を守りながら機能性も追求。



[株式会社石山染交]



16 Kimekomi 絹絵 北斎紋様

桐に絹で絵を描く。塚田工房六代目の塚田さんは、木目込人形の伝統技法で新しい作品を生みだした。葛飾北斎が描いた模様、桐の上で花開く。Kimekomi 絹絵は、すみだの木工職人「指物益田」「二葉桐工房」とのコラボレーションによる。



[塚田工房]

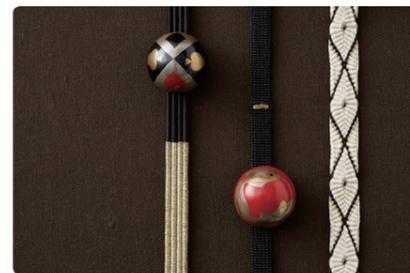


17 かざりがびょう 鋳画鉾

「2万種以上ある家紋と、神社などの装飾で千年を超える伝統を持つ鋳金具を次世代へ繋げたい。」直径1cmの愛らしい画鋺は鋳職人の塩澤さんの想いから生まれた。桐箱には代々家を守ってきた家紋のいわれも書いてある。



[有限会社塩澤製作所]



18 昭和モダン 蒔絵 帯留・ブローチ (輪)・バングル

ご夫婦で骨董店を営んでいる井上さんは昭和初期のモダンなデザインに惹かれ、蒔絵作品をつくりはじめた。現代女性に似合う、大人の遊び心あふれる和の小物だ。トランプなどレトロな模様が漆と金銀粉で描かれている。

[K's]



19 江戸バッグシリーズ “江戸かたばみ”

歌舞伎の衣裳生地「正絹浜袖」に、子孫繁栄の吉祥文様である「かたばみ」を手描き友禅で染め、金糸銀糸の日本刺繍を施した。持ち手の組紐も別織りで製作したクオリティの高いバッグ。内ポケットや上部カバーも使いやすい。



[株式会社石山染交]



20 本漆し塗りマグカップ

漆塗りは、世界に誇る伝統文化だ。安宅さんは歴史ある建造物も手がける漆職人。日常の中で、気軽にふだん使いできる本物をつくろうと考えた。手に取るとふわりと軽く、漆の持つ重厚感ある色と艶、やさしい温もりが魅力。



[安宅漆工店]



21 趣向裂カード入れ 蓋付き

表具は、壁貼り、襖など内装から屏風、掛軸まで、和の裂(布)や紙を貼り仕立てる伝統技だ。製作の際に出る端裂でつくったカード入れは、一点ずつに寺院、茶道、歌舞伎、相撲など歴史に由来するストーリーが秘められている。

[前川表具店]



22 kazari earrings basic

かざり工房しおざわは、御輿などの鋳金具をつくる技を現代に受け継ぐ。約1,500種もの型(金属に模様を打ちこむ型)から文様を選定、ピアスをデザインした。脈々と続く職人技と日本古来の意匠に、新たな息吹が宿る。



[有限会社塩澤製作所]



23 ボディブラシ

肌を柔らかくする山羊の毛、馬のたてがみ、尻尾毛。人の肌は自然のものだから、洗う道具も自然の素材にこだわりたい。宇野さんがつくるボディブラシは、ゆっくり深く呼吸をしているようだ。肌の内面にもやすらぎを与えるボディブラシ。



[株式会社宇野刷毛ブラシ製作所]

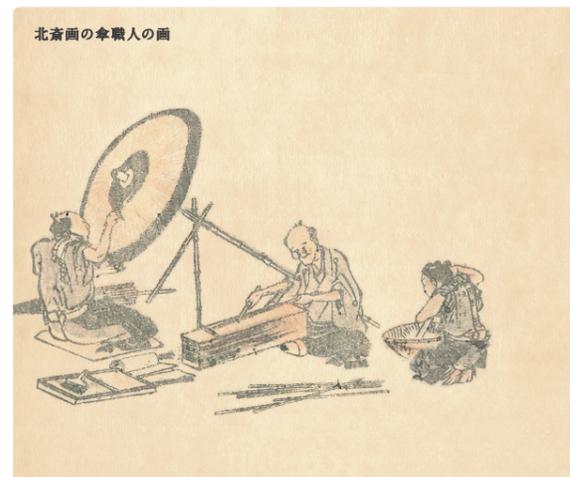


24 桐屋田中 桐の軽量椅子&テーブル

軽量な桐素材は、高齢者の暮らしに役立つはずとの考えから作られた。この椅子とテーブルは、通常の木材の半分程度の軽さ。座面は表面を焼いた時代仕上げ、伝統のホゾ加工で組み立てている。機能性に加え心までも満たしてくれる椅子とテーブル。



[株式会社タナカ]



すみだものづくり百科 [1]

【家内工業】瓦師、金彫師、刷毛師、足袋師、人形師。江戸時代からすみだは多種多様な職人が暮らす家内工業のまちだった。

【近代工業】武家屋敷跡の敷地、失業した武士の労働力、水運・陸運の利便性といった背景から、明治維新後すみだは近代工業の集積地に。

【洋風化】生活の洋風化から、明治時代に洋服、マッチ、石けん、時計、ビールなどの生活品産業が興る。さまざまな有名メーカーがこの地から生まれている。

【葛飾北斎】ものづくりのまちを愛した北斎は、生涯のほとんどをすみだで暮らした。2015年には「すみだ北斎美術館」が開館。



## 25 スマホスタンド

海外からの旅行者にも、日本古来の手技を伝えたい。そんな想いから誕生した木目込のスマホスタンドは和布の彩りが美しい。木目込とは人形づくりの伝統技法。フォルムは遠か昔、隅田川岸から眺めた富士山の風景をイメージしてかたどった。

[塚田工房]



## 26 一文字提灯

一文字で意味をあらわす漢字は外国人にも人気があり、日本でも思い入れのある一文字を持つ人は多い。江戸文字で描かれた一文字提灯は、粋な贈り物。江戸文字とは「運気が上がるように」などの願掛けを秘めた江戸書体の総称。

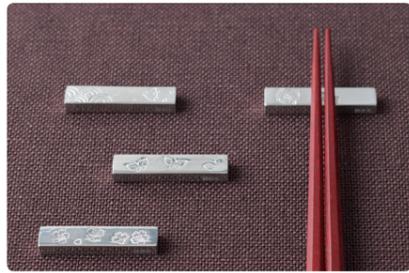
[アトリエ創藝館]



## 27 都鳥箸置き

およそ200年の歴史を持つ名園・向島百花園。園内には江戸時代、焼き窯が存在した。庭園に集まった文人墨客は、隅田川の土で練った器が焼きあがるまで花木を見て過ごしたという。この箸置きは当時を伝えるものとして50年ほど前に復刻された。

[茶亭ささら]



## 28 箸置き「TAGANE」

梅・桜・七宝などの吉祥文様。五個一組の箸置きの中に、裏面の模様が異なるものをひとつ潜ませる粋。完成すると下り坂になるので、あえて未完成にするという古来の職担ぎに倣ったという。秘められた物語も合わせて、誰かに贈りたくなる。

[有限会社塩澤製作所]



## 29 カシペーパーウエイト

置いてあるだけで気持ちを和ませてくれるペーパーウエイト。両国国技館を訪れる世界中の相撲ファンにと、七代目塚田真弘さんが創作している。一つひとつ手作業で表情を描いているので、ご真似のカシに似ている人形があるかもしれない。

[塚田工房]



## 30 雅ブラシ

手植えブラシと組子細工という2つの伝統技術が融合した、気品あふれるブラシ。柔らかな馬の産毛だけを使用し、一束ずつ手で植毛している。麻の葉、栴つなぎ、格子の3タイプがあり、どれも魔除けや繁栄を意味する吉祥文様。

[株式会社宇野刷毛ブラシ製作所]



## 31 久米繊維謹製 色丸首

日本製Tシャツの先駆者である「色丸首」を伝統と現代の手法で復刻。綿花から厳選した上質な生地。和の色彩。Tシャツ製造に半世紀以上の歴史を持つ久米繊維による紳士のための極上の一着。

[久米繊維工業株式会社]



## すみだギャラリー 1

繊維工場のラベル (1900年代)

墨田区の南部には、今も多くのニット織物工場が存在している。



## すみだギャラリー 2

製鉄所 (1910年代)

自動車メーカーの下請けとして、製鉄所も数多くあった。



## 32 すまいるスイムシリーズ

子どもたちに水泳の授業を楽しんでもらいたいと開発した水着。超はっ水加工を施しているため速乾性が高く、体が冷えにくいのが特長。2方向に伸びる生地でフィット感を高め、カットソーなどデザイン性にもこだわっている。

[フットマーク株式会社]



## 33 北斎シリーズ

葛飾北斎の絵を色鮮やかに再現したステーションナリー。素材はなめらかで軽いすみだ産ビッグスキン。天然成分でなめし、排水・廃棄物も環境に配慮して処理している。

[株式会社サクラワクス]



## 34 Oeuf [ウフ]

やわらかく、軽い。ビッグスキンの魅力を最大限に引き出すため、手で揉んで、くしゃくしゃとした和紙のような風合いを出した。素材の触感を活かしシンプルにデザインした、ルームシューズ。

[コージロー株式会社]



## 35 IKIJI [ポロシャツ]

IKIJIは、江戸時代のものづくりを継承するすみだ発の共同ブランド。「いわれ柄」をモチーフに江戸の粋、遊び心を表現している。

[精巧株式会社]



## 36 革風呂敷

風呂敷は1枚の布に物を包んで持ち運ぶ、日本伝統のエコバッグ。モダンなスタイルで復活させるため、光沢、触感、使用感を極めてオリジナルの革から開発した。

[株式会社二宮五郎商店]



## 37 風琴マチシリーズ [エコテックス100]

側面のマチがアコーディオンのように伸縮する日本独自の「風琴マチ」技法。精密な型紙と直線の間隔を均等に保つ職人技だ。お札や名刺を出し入れしやすい財布と名刺入れ。

[株式会社二宮五郎商店]



## 38 SPIDER

革の端材やしわのあるネック部分を再利用。38のパーツを縫い合わせ、美しい一足に。滑らかな表面の仕上りは、長年積み重ねた技術の結晶「スコッチグレイ」ブランドの製法。端材活用というエコロジカルな発想を斬新なデザインへと昇華。

[株式会社ヒロカワ製靴]



## 39 うきうきシャツエプロン

「介護®」という言葉を送り出したフットマーク。さまざまな装いと合わせていただける食事用エプロンには介護される方に外出の機会をふやしていただきたいという想いが込められている。

[フットマーク株式会社]



## 40 INDUSTYLE TOKYO ドレスシャツ

一見ワイシャツだが、実はしなやかなニットのシャツ。皮膚の動きを分析して考案した「動体裁断®」は宇宙船内服にも採用されたオリジナル。腕を上げても裾が上がらないのが特長だ。高い縫製技術と画期的な型紙から生まれた商品。

[丸和繊維工業株式会社]





41 “MONYOU” handkerchief

着物や半纏に用いられる雁木紋、八角つなぎなどの紋様柄を大胆に表現したハンカチーフ。テスト染めを繰り返し、銀煤竹、水浅葱といった自然で柔らかな古代色を出すことに成功した。



[株式会社石山染交]



42 Mマークシリーズ

松山油脂が墨田区で石けん製造をスタートしたのは1946年。松山油脂では、現在でもその当時と変わらない「釜焚き製法」の技術と伝統を守っている。

※認証は一部商品



[松山油脂株式会社]



43 上質メモブロック

シンプルで存在感のあるメモブロック。伊藤インダリーの高度な製本技術による凹凸のない断裁面が美しく、無駄のないデザインが使う人の想像力をかきたてる。上質紙なので書き心地もなめらかだ。



[株式会社伊藤インダリー]



50 江戸硝子しょう油差し

創業100年以上になる廣田硝子がつくった、古代色硝子のレトロなしょう油差し。季節の花々を手作業で刻み込んでいる。しょう油を入れると少し黄みがかかった硝子に花切子がふわりと浮かび上がり、美しい。



[廣田硝子株式会社]



51 江戸切子 [粋と技シリーズ]

日本独自の技法である江戸切子の素晴らしさを日常的に楽しめるモダンなグラス。スタンダードの小説から発想した「赤と黒」の配色で、市松紋、六角籠目紋、菊繋ぎ紋という伝統模様を現代風にデザインしている。



[有限会社ヒロタガラスクラフト]



52 和庖刀・洋庖刀

創業慶応2年(1866年)。日本刀に近い製法の和庖刀から製造を始め、代々続く伝統技術を守りながら、切れ味鋭い家庭向け和庖刀や洋庖刀を幅広く創作。



[株式会社正本総本店]



44 プロジェクトペーパー

約30年に渡り日本のクリエイターに愛用されてきたプランニング用紙。いち早く方眼紙を採用するなど、時代に合わせ改良を重ねてきた。現在は環境への配慮と書き心地にこだわり、無塩素漂白の上質紙を使っている。



[オキナ株式会社]



45 ORIGAMI FOR CRANE -折り鶴のためのおりがみ-

1枚の紙から鶴が生まれる感動を世界に伝えたい。そんな気持ちから生まれた商品。円と直線を合わせたモノトーン柄で折る面によって模様が変わる。インテリアにも映える大人の折り紙だ。



[株式会社 NACAMURA]



46 まとまるくん

消しやすが散らない「まとまるくん」は発売30数年になるロングセラー商品。時代に合わせた商品づくりで、サイズもデザインもバリエーション豊富。ヒノデワシは日本の消しゴム文化を創造するユニークな企業だ。



[ヒノデワシ株式会社]



53 はさみ

医療用はさみの高度な製造技術を用い、一点一点手作業で製作。切れ味、なめらかな動き、耐久性のすべてを備えている。刃同士が吸いつくような切れ味を追求し、角度や隙間を微細に調整。無駄がそぎ落とされた形状に機能美が宿る。

[石宏製作所]



54 てのひら tong

レタス、ブロッコリーから、豆、コーンなどの細かいもの、ドレッシングまで。サラダのすべてを取り分けられる小さな tong。丸く可愛いフォルムで柔らかく、力の弱い方でも使いやすい設計。



[合資会社笠原スプリング製作所]



55 お皿まな板

まな板が、折り曲げると椀の形のお皿に。軽く持ち運びやすい機能性は、アウトドアに最適。洗えばまた使えるので、環境にやさしいのもうれしい。家庭の食卓で、フルーツなどを切り分ける時にも重宝する。



[有限会社チバプラス]



47 東京職人

鮫小紋と桜模様を表裏に合わせた粋な洋傘。骨が多く丈夫な和傘構造。傘職人の手仕事で丁寧に仕上げられている。混雑した場所ですしただけ傘を開く二段開き機能は、「江戸しぐさ」という江戸のマナーから考案したもの。



[株式会社イー・ピー・アイ]



48 銅製如雨露

繊細な盆栽のために、理想の水やりを研究。素材は殺菌作用のある銅。竿を長く、穴を小さくして、きめ細やかな散水を可能にした。世界中でファンがふえている盆栽。銅製如雨露は海外でも多くの園芸家に愛されている。



[根岸産業有限公司]



49 江戸前すり口醤油注ぎ

60年間、累計2千万本を製造してきたロングセラー。液だれしないタイプを新開発したところ6万本以上のヒット商品に。シンプルさの中に和のぬくもりを感じるやさしいフォルムが、人気のヒミツ。



[岩澤硝子株式会社]

**すみだものづくり百科 [2]**

【硝子】 明治、大正、昭和と運河沿いに硝子工場が立ち並んだ。今も手作りの硝子工場が点在。硝子づくりを体験できる工房も。

【金属】 医療など幅広い分野で注目される金属加工技術の高さ。技術を活かし、消費者向け商品を開発する企業もふえている。

【ゴム/プラスチック】 工業用を中心に質の高いゴムやプラスチック製品を製造。消しゴムや風船でも歴史ある会社が新しいヒット商品を生みだしている。

【アパレル】 東京ニット製造企業の3分の2がすみだに集中。染色や縫製の工場も多く、日本のファッションを支えている。

【石けん】 衛生・清潔をめざす近代化の波から明治以降、多くの石けん工場が生まれた。今も多種多様な石けん会社がある。



56 東京復刻ガラス  
「BRUNCH」シリーズ

1950年代に欧米へ輸出されていた廣田硝子のカタログから、優れた作品を選び復刻。昔から伝わる技術で完成された繊細な模様の極薄カットグラス。



[廣田硝子株式会社]

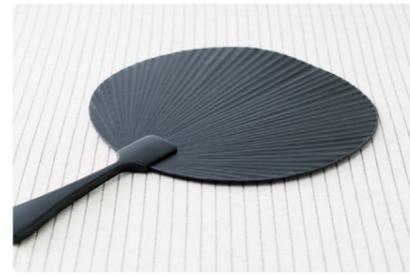


57 花蕾  
江戸硝子 大正浪漫硝子シリーズ

同じフォルムのグラスを江戸・大正の技法で表現。写真のグラスは大正時代に流行した乳白あぶり出し技法。ゆらぎ感ある光に日本の硝子づくりの物語が宿る。



[廣田硝子株式会社]



58 革うちわ

サクラワックスは革を加工、製品化する技術を持つ工房。このうちわには、独自の革漉きの技が秘められている。コシ、艶がある牛本革を紙のような薄さと軽さに変身させた極薄の高級本革が、革の可能性を粋にスタイリッシュに広げていく。



[株式会社サクラワックス]

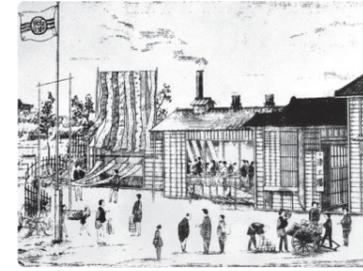


65 kaico

大きな開口部や木のつまみ。洗練の中に使い心地の工夫が詰まっているキッチンウェアシリーズ。金型を製作する金属加工会社だからこそ、機能やフォルムを追求する、デザイナーの斬新な提案にも応えることができたという。



[昌栄工業株式会社]



すみだギャラリー 3

向島の染工場

隅田川沿いには多くの染工場があった。



すみだギャラリー 4

工場の町

最盛期、墨田には1万軒近くの工場があったという。



59 KAWA-ORIGAMI

ORIGAMIの名の通り、1枚の革を折り曲げ、最小限の縫製を加えるのみ。余分をそぎ落とす和の様式美、裏地へのこだわり、紙幣を大切にしている日本の心も表現。精緻な技と斬新なデザインに海外市場からも熱い視線が集まる。



[株式会社二宮五郎商店]



60 しじみ

銀工房wanlingの竹崎さんは身のまわりの小さな自然をジュエリーにしている。浮世絵にも多い隅田川の「しじみ」をモチーフに形や模様を繊細に表現。身近なものに潜む意外な美しさが、ジュエリーを通して心にしみこむ。



[銀工房wanling (ワンリン)]



61 寿盃 松竹梅

父・輝雄さんを師とする山田真照さんは、古典的な絵柄を新しい感性で削り上げる三代目切子職人。透明な硝子に花鳥風月を描く伝統的な切子技法「花切子」で、昔から祝い事に使われる松竹梅を洗練された寿盃に仕立てた。



[玻璃匠 山田硝子]



66 merippa

洗濯機で洗えるから清潔。軽くて丸められるから、どこにでも持って行ける。メリヤス工場が初めて手がけた自社ブランド品メリッパ。やさしい肌触りと表裏両面を楽しめるかわいいデザインが人気でリピーターも多い。



[中橋莫大小株式会社]

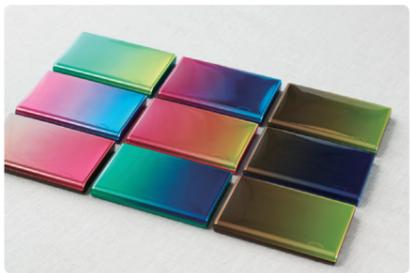


67 IKIJI シャツ

IKIJIは墨田区内を中心とする製造業者が共同運営するメンズブランド。山東京伝や北斎らが描いた江戸の粋を今にデザインする。フィレンツェの展示会にも出展。高い技術力と遊び心を秘めたアイテムに世界の注目が集まる。



[精巧株式会社]



68 ornament Card Case

繊細なグラデーションにはっとする。ふわりと自動で開くフタに驚く。世界最高レベルのプラスチック成形技術ダブルインモールドにより実現した色と質感がビジネスを美しく彩り、持つ人の個性をスタイリッシュに印象づける。



[吉田テクノワークス株式会社]

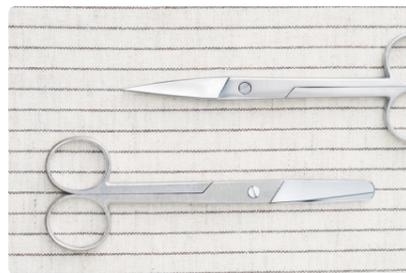


62 ガラスの硯

代表の尾崎さんは、板ガラスならではの美しい製品を自在に創作する硝子職人。ガラスの硯は、厚みのある板ガラスを硯に生まれ変わらせた。丘（墨をする部分）と海（墨を溜める部分）のなだらかな曲線に熟練の技が見える。



[尾崎製鏡株式会社]



63 無垢鋏 (MUKU) シリーズ

医療現場で求められる切れ味、粘着テープが刃につかないコーティング、無駄なものをそぎ落としたデザイン。医療用鋏をつくる職人がデザイナーと出会い、切れ味の鋭い、使いやすい、そして美しい、三位一体の鋏が誕生した。

[石宏製作所]



64 ● 典型 自転車止め

開放しコンクリートでシンプルを極めたデザイン。個人宅、店舗、病院、体育館などさまざまな場所で、すみだの製品が駐輪場の風景をスタイリッシュに変えている。



[柴田コンクリート株式会社]



69 ウォッシュャブルレザーシリーズ

墨田区は、量も質も日本一の豚革の生産地だ。「ウォッシュャブルレザー」は先進性でも傑出している。中性洗剤で洗えるという高機能を持ちながら、シルキーでナチュラルな色と触感。デニムのように洗うたびに風合いの変化を楽しめ、しかも軽い。



[トウキョウレザーファクトリー]



70 防災・防犯用ホイッスル

精密加工部品を製造する会社が、その技術を活かし国内で最小サイズの防災用ホイッスルを製造。人気の秘密は壊れにくい真鍮製。1点ずつ音出し検査を行うという品質へのこだわり、メイドインすみだの誇りが見える。



[墨田螺子産業株式会社]



71 おゆまる

お湯で温めて、簡単にプラスチック小物がつくれるねんど。球状に丸めればスーパーボールのように弾む。1988年、子どものおもちゃとして誕生したが、今では大人たちもアクセサリーやフィギュアの手づくりに夢中になっている。



[ヒノダワシ株式会社]



## ものづくりは、未来づくり。

一見、普通の家だけれど小さな工場。

すみだには、そんな家並みが続きます。

先進の機械が並ぶ工場でも、大切にしているのは  
手と目と心による、ものづくり。

研鑽を積み、小さな差異にこだわり、

完璧なもの、今までにないものを生み出していく。

そういう日常はるか昔から繰り返されているのです。

ものづくりの歴史を持つすみだでは、

地球環境を考え、人にやさしい商品が

今も次々と生まれています。



### 72 黒ばら純椿油 ツバキオイルシリーズ

椿油は人の皮脂に近い「オレイン酸」をたっぷり含む天然保湿剤。髪はもちろん肌のお手入れにも昔から使われている。市場に出回る椿油は高温加熱されたものがほとんどだが、黒ばら本舗は肌にやさしい「生絞り製法」にこだわる。

[株式会社黒ばら本舗]



### 73 おもてなしのプロが使う 無臭除菌スプレー

衛生管理が求められるホテルや介護施設などで採用されている除菌剤を家庭用に商品化した。主成分はウイルスも細菌も強力除去するPHMB。臭いや色落ちの心配がなく、コンタクトレンズの保存液にも採用されている安心安全な成分だという。

[株式会社社創研]



### 74 立つしゃもじ

日本の食にかかせないしゃもじを画期的に変えたヒット商品。置き場所に困るしゃもじを自立させ、握りやすいグリップと飯粒をつぶさない極薄のヘラ面を備えた「立つしゃもじ」。和食への注目が高まる中、ドイツIFデザイン賞など数々の国際賞も受賞。

[株式会社マーナ]



### 75 ブタの落としぶた

調理の落とし蓋、レンジで温めるときの蓋、瓶の蓋を開けるオープナーと3通りに使える機能的な調理用品。鍋の中で鼻から湯気を吹き出すブタ。鼻に菜箸を入れて取り出されるブタ。使っていると思わず笑顔になってしまう。

[株式会社マーナ]



### 76 Animal Brush

ころんと手のひらにおさまる、馬、山羊、豚。インテリアとしても愛らしい動物の形は、何の毛が使われているかをあらかず。上質な天然毛は職人の手で丁寧に植えられている。丸い木型のフォームは握りやすく、毎日自然と手に取ってしまう。

[株式会社宇野刷毛ブラシ製作所]



### 77 Made in Ryogoku “まるあ柄”

創業100周年を期に生まれた東屋オリジナルの「まるあ柄」。6代続く両国の地で、日本のものづくりを守るという想いをこめ、隅田川の水面の輝きをモチーフにした。すっきりしたフォルムが特徴的な小銭入れや財布は、ひとりの職人がすべての工程を受け持つ。

[有限会社東屋]



### 78 TOKYO GA-MA

ガマグチという昭和のお母さんのイメージだが、実はワンクリックで開閉できる機能性の高い金具。それなら小銭入れだけでなくパソコンや書類ケースにも。「TOKYO GA-MA」は新しい革小物のスタイルとしてガマグチを未来に提案する。

[株式会社サクラワクス]



### 79 北斎プロジェクトTシャツ

「北斎プロジェクト」という名前に込められているのは、葛飾北斎への敬意。北斎ならTシャツをキャンパスにどんな作品を描くだろう。職人とデザイナーが、憧れの絵師に恥じない表現を追求し続けるプロジェクト。

[久米繊維工業株式会社]



### 80 丸バッグ

ありそうでなかったまん丸いバッグ。国産なめしのソフトな牛革をやさしい色合いに染め上げ、丁寧に縫い上げている。東京の地図をモチーフにした裏地もチャーム。学生カバンのメーカーとして出発した丸刈片野製靴所の原点は、確かな製品づくりだ。

[有限会社丸刈片野製靴所]





81 some-zome -Tシャツ-

東京の染色技術の高さを表現したい。量産品ではできない、人間の手と感性でしかできない染めを。カゴメ柄、格子柄、丸柄、切り子柄、ぼかし柄。some-zomeには東京都繊維染色協同組合の染工場4社の高い技術が駆使されている。

[株式会社川合染工場]



82 スクリューポンチ

「スクリューポンチ」は、力もいらず音も出ない穴あけ工具。40年以上前に誕生、何のPRもしていないのに、今では世界各国で愛用されている。最近では類似品も出回っているが、1点ずつ手作業で刃を研ぐ本家本元は、切れ味が凄いとユーザーに高く評価されている。

[株式会社野中製作所]



83 ALMA -aroma pins-

どの角度から見ても美しい、ボタン型の小さなピンズ。中に香りを染みこませた綿球を入れることで、好きな香りを“装う”ことができる。ファッションアイテムの一部として、気軽に香りを付け替えるという新しい提案。

[株式会社石井精工]



90 北斎漫画吹き出し帳

どうも製本所の堂地さんは「北斎漫画」をはじめて見たとき、偉大な画家 葛飾北斎にぐっと親近感を抱いた。江戸の人々のユーモラスなしぐさや表情に何をしゃべっているのかな?と想像力をかき立てられ、この吹き出し付きメモ帳を思いついたという。

[どうも製本所 紙工房 堂地堂]



91 クライミングマン

UFOパルーンやお散歩パルーンで市場に新風を起こしたエスエージーパルーンズ。クライミングマンは、金属のあるところならどこでも挑む風船人間。両手足にしぼせた強力磁石で、軽量のものでもホールドできる。こだわりの美しい筋肉。

[エスエージーパルーンズ株式会社]



92 WAYOU

WAYOUは台湾のデザイナーとのコラボレーションから生まれた。台湾でも日本でも夏の思い出の一端に眠る、かき氷のある風景をイメージして創作。3つの器にかき氷・具材・シロップを入れる想定だが、もちろん使い道は自由。

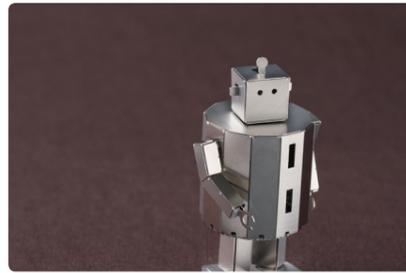
[廣田硝子株式会社]



84 職人が大切な人に贈った はさみ 携帯用・普段用

持ち運びに便利な携帯用はさみ。普段用はさみは2つにはずして気軽に洗える。はさみの職人が感謝の気持ちをこめて妻につくったこの商品には、安心・便利さへのこだわりが凝縮されている。やさしい見た目ながら切れ味が抜群で、肉などを切るにも使える。

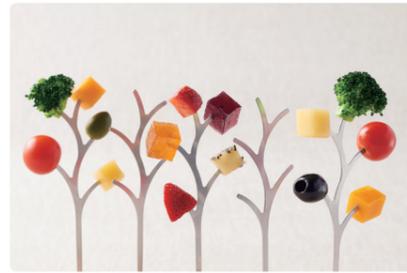
[石宏製作所]



85 FACTORY ROBO

ロボットや深海探査艇など、新しいものづくりに挑戦する浜野製作所。みんなでひとつのものを囲んで、相談しながら組み立てる。この愛嬌あふれるロボットには、これまで培った技術力と、ものづくりへの情熱がこめられている。

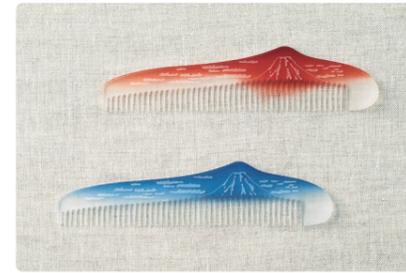
[株式会社浜野製作所]



86 TREE PICKS

木をかたどったステンレス製のフードピックは、並べて台座に立てるだけでも、なんとも言えないかわいらしさがある。枝を料理で彩る他、楊枝がわりに添えたり、アクセサリースタンドとしても。使う人によって表情を変える、新しいアイテムだ。

[合資会社笠原スプリング製作所]



93 Sumida Comb

道具にこだわる理美容師が認める、和色のくし。ヘアスタイリストと組み、最高の道具をつくらうと技術の粋をつくした。丁寧に素材を削り、理想のフォルムを完成。複数の染料をかけ合わせ、北斎画のくすみある独特の色を再現した。

[株式会社アヴァンセ]



94 北斎、江戸切子うすはりグラス

厚さ1mm以下、松徳硝子のうすはりグラスに絵を描けるのは、多様な江戸切子技法を操れる山田真照さんの腕があつてこそ。すずめおどりと隅田川の桜を合わせた「宴」。傘をもつ人々の上に雨を降らせた「雨宿り」。どちらも北斎漫画がモチーフ。

[玻璃匠 山田硝子]



87 すみだデニム

Creatorsは、メリヤスの産地という墨田区の歴史を背景にスウェット素材のデニムを提案する。追求したのは、見た目のデニムらしさ、動きやすさ、くずれ過ぎないフォルム。プロダンサーのアドバイスを受け、ステッチやウエストラインに工夫を重ねた。

[株式会社Creators]



88 歌舞伎®タオル

伝統美を舞台にあらわす歌舞伎。その衣裳製作を江戸中期から担う石山染交が、古典と現代を融合させたマフラー。タオル地を刷毛染めできるよう、生地も染料も糊も開発。定式幕や、勸進帳などの演目が、肌ざわりのいい生地にふんわりと浮かぶ。

[株式会社石山染交]



89 Jono Jono

墨田区の地場産業であるメリヤス素材で、ハットとする商品提案を続けるオレンジトーカー。Jono Jonoはハンドメイドのためのメリヤスカーン。糸が太いでラグ、バッグなどの大物を短時間でつくることできる。

[オレンジトーカー株式会社]



95 葛飾北斎浮世絵パズル

70年の歴史を持つ紙器会社が技術を活かして考案した。開封前の商品はノート1冊ほどの大きさと薄さ。組み立てれば6種の北斎画パズルを楽しめる。完成まで30分ほどかかるパズルで遊びながら、6種の北斎画の構図を学べるのも魅力だ。

[株式会社嶋田紙器製作所]



96 ウェルカムソープ

引出物で使う和菓子の型から生まれた鯛の石鹸。遊び心あふれるデザインだが、原材料には徹底したこだわりがある。環境への影響に配慮した世界基準の植物パームを使い、香りにも天然精油を配合。特別なギフトにもなり、視線を集めるオブジェにもなる石鹸。

[玉の肌石鹸株式会社]



すみだギャラリー 5

浮世絵「隅田川花見」(1800年代)  
江戸時代から、隅田川沿いの地域(墨堤)は美しい桜の名所として有名だった。

---

すみだギャラリー 6

浮世絵「両国橋納涼図」(1800年代)  
江戸時代、両国橋周辺の地域は、職人がいきいきと働く栄えた下町だった。





97 TAMANOHADA シリーズ

社名「玉の肌」をあらわしたまん丸いソープ。ノンシリコンの先駆けといわれる髪と地肌にやさしいシャンプー。香りのよさで愛されてきた歴史を深化させ、コンディショナーや液体ソープなどすべての商品に、天然精油配合の香りを6タイプずつ揃えている。

[玉の肌石鹸株式会社]



98 BIG マルチジッパーストラップ

アクセサリ-マルタカの発案でYKK株式会社と二人三脚で開発した20年来のロングセラー商品。口コミでファンが広がってきたという。時代に合わせたデザインは少しずつ変えている。現在は社員証のストラップやネックレスとしてロングタイプも人気だ。

[株式会社アクセサリ-マルタカ]



99 カップポット cupPot

台湾のコルクと日本のホーロー。どちらもかつて一時代を成した産業だ。互いの歴史と未来を結ぶという目標を立て、台湾のデザイナーとともに開発したcupPot。世界初の取っ手がないハンドドリップポットに、コーヒーのプロからも熱い視線が注がれている。

[昌栄工業株式会社]



106 言問団子

隅田川ほとりの茶屋の団子が歌人在原業平の歌にちなみ言問団子と名づけられたのは明治元年。串にささないシンプルな団子は、今の時代にもモダンで美しくある。

[株式会社言問]



107 じま 志満ん草餅

生ヨモギを使っているから季節によって味がかわる。春のヨモギは柔らかく、夏は草の香りが濃い。秋から冬は食物繊維の食感を楽しむ。文人墨客が親しんだほろ苦いおしる。

[株式会社鈴木製菓]



108 長命寺桜もち

江戸中期、墨堤の桜葉を塩漬けにしてもちをくるんだのがはじまり。江戸の昔から初詣、花見などに訪れた見物客に大人気。葉の香りとこし餡の上品な甘さが絶妙のバランス。

[株式会社やまと]



100 アラレカフェ

バジル、ペペロンチーニなど洋風テイストのお洒落なアラレ。スティック状の1本の中にいろいろな種類が入っていて、開けるたびに楽しくなる。コーヒーにもワインにも合うと、若い女性にも人気だ。

[株式会社東あられ本舗]



101 ハム・ソーセージ

素材にこだわり、手間と時間をたっぷりかけてつくり上げたハムやソーセージ。食品添加物は極力使わず、天然塩と香辛料で厳選した食肉の旨みを引きだしている。本場ドイツでも多数の賞を受賞した、国際的な名品。

[株式会社桑原ハム]



102 北斎揚げ

塩・醤油・和風カレー、3種の味の揚げあられ。すみで生まれた江戸の天才画家、葛飾北斎の作品「富嶽三十六景」をパッケージに使用。北斎の絵が入った手ぬぐい・巾着入り商品もあり、海外への土産としても人気。

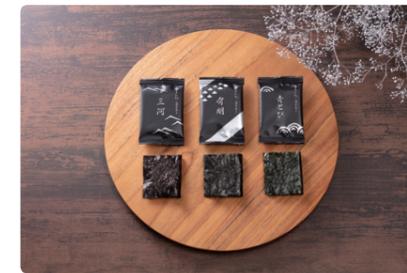
[株式会社東あられ本舗]



109 佃煮「若煮」シリーズ

カルシウム、ミネラル、タンパク質をたっぷり摂る。でも塩分はひかえめに。新時代の佃煮を求め、昭和の末に誕生した若煮シリーズ。試行錯誤を繰り返して生まれた味は、今も人を惹きつける。

[株式会社海老屋総本舗]



110 東あられの海苔巻き

「濃い口醤油×有明焼海苔」など三種の国内産高級海苔と醤油の味くらべセット。ひとつひとつ丁寧に海苔を手巻きしている。100年の経験と創意工夫から生まれた、極上の味わい。

[株式会社東あられ本舗]



111 生フルーツシャーベット

「キラキラ橋商店街」の老舗果物屋マチヤス。店主の町山さんは、市場にも動いていたフルーツのプロ。いちご、メロン、マンゴーなどの食べ頃を熟知している。味も香りも最高の瞬間をとらえて、熱を加えずに「生」のまま氷菓に閉じこめている。

[株式会社マチヤス]



103 隅田屋米

艶・香り・甘さがすばらしい、極上の米。生産年の気候を考え最良の米を厳選。ワインにおける葡萄のように、各年最高の素材を米のプロブレンド、風味を活かす方法で精米している。

[株式会社隅田屋商店]



104 トーキョーサイダー

第二次世界大戦後、東京復興のシンボルだった「トーキョーサイダー」。ガラス瓶やラベル、全糖・強炭酸の懐かしい味が当時のまま、オリジナルバージョンとして完全復刻した。

[丸源飲料工業株式会社]



105 山田家 本所七不思議人形焼

山田家の人形焼きは、新鮮な卵、北海道産小豆、レンゲ蜂蜜など上質素材だけを使い続けてきた。しっとり柔らかく自然な甘さが人気。すみだに伝わる怪談を集めた「本所七不思議」の包装紙は、創業時から親しまれている。

[株式会社山七食品]



112 みつよしのざる豆腐

自分が最高と思う大豆と製法で、最高の豆腐をつくりたかった。幻の大豆といわれる「小糸在来」を使い、水にさらさない製法で甘みと香りを最大限に引きだしたざる豆腐。三善豆腐店は「キラキラ橋商店街」に店を構える。

[有限会社三善豆腐工房]



113 ようかん 栗羊羹

「青柳」の味に満足された一條実孝公より「正家」の名を賜り「青柳正家」となる。透明感ある羊羹にたっぷりの栗。切り分けやすい栗と羊羹は同じ柔らかさに仕上げる。伝え継ぐ味と心を基本に、新しい和菓子の創造にも積極的だ。

[有限会社青柳正家]



114 やさしさ しびれる ニッキ飴

はじめてなのになつかしい。しびれるけれどほのかにやさしい。創業以来、手づくり飴にこだわる宮川製菓。MILD、MEDIUM、STRONGと3段階の刺激を楽しめるニッキ飴は、味の濃淡を自在に変えられる職人技から生まれた。

[宮川製菓]





### 115 下町の小さなカフェの ドレッシング

付け合わせのサラダのドレッシングを分けてほしい、というお客さまの声から生まれた商品。パッケージ、PR、販路などをみんなで考えた。蜂蜜と赤ワインビネガーの甘酸っぱいドレッシング。肉料理やパスタのソースとしてアレンジしてもおいしい。

[東向島珈琲店]



### 116 チキンぎょうざ

テレビで紹介されることも多い商品。鶏肉と7種の野菜を合わせたタネを鶏の皮でくるくと巻き上げ、秘伝のタレにつけてオープンでジューシーに焼き上げる。大量生産はできないが、すみだの商店街をやみつきになる味で活性化したいという。

[鳥正京島店]



### 117 ドリップパック ナウカフェ ギフトバッグ

お店のコンセプトは「産地の景色が見えるコーヒー」。パッケージには産地の名前が記されている。小規模農園のスペシャルティコーヒーをオーナー自ら買い付け、カフェに併設された工場焙煎して、香りを封じ込めたドリップパック。

[株式会社マキネスティコーヒー]



### 118 唯一無二のブレンド珈琲豆 しげのブレンド/和まちブレンド

生豆の個性を見極め、気温や湿度を考慮し焙煎を行う。「しげのブレンド」は深煎りながらも苦みの中に甘みがある。マイルドな「和まちブレンド」は下町の和やかな雰囲気イメージして店主のお嬢さんが命名したという。

[しげの珈琲工房]



### 119 すみだ野菜スイーツ

環境にやさしいまちづくりを考え続ける油田カフェ。ここでは、すみだ産の野菜を使ったスイーツが食べられる。カフェの隣の野菜工場が無農薬で育てられた小松菜やケールの粉末を練り込んだスイーツ。綺麗な緑色は、すべて植物本来の色味だという。

[油田カフェ]



### 120 やさしさ やみつき 白クルミ 黒クルミ ジンジャーアーモンド

昔ながらの飴屋がつくるナッツ菓子は、ココも風味もちょっと濃厚。ナッツの香ばしさと飴の深みがお口の中で混じりあう。白クルミはきなこ飴、黒クルミは黒糖飴、ジンジャーアーモンドはショウガ飴を使用。

[宮川製菓]



### 121 たらふくもなか

このぐうたらな招き猫、Instagramなどで広がり、小さな和菓子店に全国から注文が来るように。おなかに入っているのは「白ダイヤ」と呼ばれる稀少な白小豆の粒あん。白あんよりココがあり、赤い小豆よりクセのないおいしさ。

[御菓子司 白禪]



### 122 和ショコラ

パリで修行を積んだショコラティエが開いたチョコレート専門店には、日本古来の吉祥文様を描いた商品が宝石のように並ぶ。目で味わい、舌にのせると、柚子、ほうじ茶、きな粉などの和素材が上質なカカオと溶け合う。日本人であることが誇らしいチョコレート。

[ショコラティエ川路]



## すみだモダン 2011-2018 飲食店メニュー部門

食通のまちとして知られる東京墨田区には、のれんを守り続ける老舗や新しい味を極める人気店が数多くあります。すみだモダン 飲食店メニュー部門は、2011年から2018年まであたりさしとなつかしさのあるメニューをブランド認証してきました。